

## I 実践

### 1 研究主題

誰に対しても思いやりの心を持ち、助け合い、粘り強くやり遂げる児童の育成

#### (1) 主題設定の理由

本校は、「心豊かに健やかで、たくましく行動できる児童を育てるーかしこく・やさしく・たくましくー」を教育目標としている。それを受け、人権教育の視点から、「誰に対しても思いやりの心を持ち、皆と仲良くできる子を育てる」「仲良く助け合い、粘り強くやり遂げる子を育てる」の2点を掲げて取り組んできた。

本校の児童の多くは、明るく素直であり、友達と協力しながら活動できる。しかし、時に、自己中心的な行動や相手を思いやる気持ちに欠ける言動をとり、周囲とトラブルになる場面が見られることもある。また、家庭環境によって、基本的生活習慣の定着や道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの個人差も見られる。

そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が相手の立場を思いやれる心や助け合う心の育成を図り、『自分の大切さ・他の人の大切さをお互いに認めること』ができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

- ア 人権意識を高めることのできる環境づくり
- イ 豊かな心を育む体験活動の充実
- ウ 児童が安心できる居場所となる学級づくり

### 2 実践内容

#### (1) 人権意識を高めることのできる環境づくり

##### ア いじめZERO集会

7月4日(金)に、坂本委員会の児童たちが中心となり、全校児童で、いじめについて考える集会を開いた。まず、全校児童を対象にしていじめについてのアンケートを実施し、その結果を発表し、いじめZEROを目指す意欲を高めた。次に、スライドでいじめに関する絵本の読み聞かせを行い、「いじめられた子の立場を深く理解する場を設定し、相手を思いやる心情を高めた。その後、「さかもと」を頭文字にしたスローガンや、昨年度から活用しているゆるキャラなども紹介し、いじめZEROに全校で取り組む体制を確認した。集会の後は、NHKの「いじめを考えるキャンペーン めざせ！100万人の行動宣言」として、児童一人一人がいじめZEROに対しての考えを書き、人権に大きく関わる問題と向き合う機会とした。

##### イ 人権教育に関するビデオの視聴と人権メッセージ作成

二学期には、各クラスで人権教育に関するビデオを視聴し、道徳教育の一環として、全員が人権メッセージを作成した。書いたメッセージは人権啓発推進センター主催の「人権についてかんがえてみませんかーあなたの思い・わたしの思いー」に代表の作品を応募した。また、各教室に「人権コーナー」を設置し、全員の人権メッセージを掲示することで、児童の人権意識の向上につなげた。

#### (2) 豊かな心を育む体験活動の充実

##### ア 地域高齢者との交流

4年生児童が、地域の高齢者とふれあったり会食をしたりする「ふれあいサロン」を実施した。坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて、音楽やダンスを発表したり、一緒にゲームや会食をしたりして楽しく交流することができた。高齢者の方に喜んでもらうにはどうしたら良いか考えて、行動する姿が多く見られた。



ふれあいゲームの様子

#### イ さわやかマナーアップ週間 ～あいさつ運動～

「場に応じた挨拶がきちんとできる、坂本の子」の実現を目指して毎月「あいさつ運動」を展開している。気持ちのよい挨拶ができるようにすると共に、挨拶を通して、好ましい人間関係をつくることをねらいとしている。毎月、担当学年の学級が、晴れの日には正門前で、雨の日には昇降口付近で、7:50～8:05まで、朝の挨拶を呼びかけた。期間中は、各学級での朝や帰りの会、道徳、学級活動の時間を活用して、重点的に「場に応じた挨拶」の指導を行っている。

#### ウ 4年生福祉体験

4年生は、総合的な学習の時間に、「共に生きる～よりよい坂本をめざして～」という福祉をテーマにした学習を行っている。そこで、福祉体験として、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験を行った。実際の体験をして、車いすで動くことの大変さや、高齢者の方の体の不自由さなどを実感できた。高齢者や体の不自由な人達に対して、どのように接したらいいか、普段の生活で自分たちにできることはないかなどを考えることができた。



高齢者疑似体験

### (3) 児童が安心できる居場所となる学級づくり

#### ア 学校生活アンケートを活用した児童との関わり

毎月行われている「学校生活アンケート」を活用し、個別面談や希望面談を行うなど、一人一人の児童の生活や心の変化を教師が見守るようにしている。

#### イ 互いのよさを認め合える掲示物作り

各学級で、道徳や学級活動、帰りの会などで、友達の良いところや頑張っていることを賞賛する機会を意図的に設けている。自分の良さや友達の良さに気づき、認め合うことで互いの大切さが実感できるようになった。

### 3 成果

- ・ 人権教育として、「いじめ ZERO 集会」や「人権メッセージ作成」を、長年継続している。いじめについて「人の気持ちや命の大切さを考えて、いじめと思われるようなことは絶対にしない」「みんなと仲良く、みんなに優しく」「相手が自分だったら…」など、人権問題に関する意識が高まってきている。
- ・ 学校や地域で行う行事や地域の方々との体験を通して、相手を思いやる気持ちが育ってきている。また、学習・生活全般を通して、友達を思いやって行動したり、友達に気遣ってもらうことで友達の良さや自分の良さを発見したりすることができ、自尊心の高まりが見られるなど児童同士の関わり合いの中で、豊かな心が育ってきている。

### II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものなので、今後も、様々な場面で、人権について考える場や体験活動を意図的に設け、人権感覚を高めていきたい。また、教師自信の研修や人権尊重の意識の醸成に努めていく必要がある。そして、日々の学校や生活や授業を通して、身近にとらえられる例を挙げながら、人としての生き方や人に関わる楽しさや良さを子供たちに伝えていきたい。

### III 人権コーナーの設置の様子



人権コーナー（昇降口横）



人権メッセージ・いじめ ZERO スローガン（各学級教室）

